

令和3年度第4回出雲市スポーツ振興審議会 議事録

1. 開催日時 令和3年10月21日(木) 10:00~11:30

2. 開催場所 出雲市役所4階 共済会会議室

3. 出席者

(委員)

会長	成相 善美	(出雲市体育協会会長)
副会長	安喰 公美	(レクリエーションスポーツ代表)
委員	青木 敏章	(出雲市体育協会副会長)
	大森 正義	(出雲市スポーツ少年団本部長)
	久家 彰	(出雲市生涯学習委員)
	水津 則義	(島根県高等学校体育連盟副会長)
	手銭 俊夫	(出雲市小学校体育連盟会長)
	野津 修一	(出雲市身障者福祉協会副会長)
	藤江 勲	(出雲中学校体育連盟会長)
	矢田 栄子	(特定非営利活動法人出雲スポーツ振興21事務局長)

(10名)

※欠席者5名(天根佑介委員、佐々木由紀子委員、寺本淳一委員、三島武司委員、山根千恵美委員)

(事務局)

三代 均	(市民文化部長)
矢田 和則	(文化スポーツ課長)
今岡 正樹	(文化スポーツ課課長補佐)
原 彩恵子	(文化スポーツ課スポーツ振興係副主任)
小村 修平	(文化スポーツ課スポーツ振興係主事)

(5名)

4. 会議内容

(1) 成相会長挨拶

皆さんおはようございます。

今日は大変お忙しい中、お集まりいただきありがとうございます。

この間、2年ぶりに、大学駅伝が開催され、私も応援したが、学生の皆さんの、一生懸命、まさに飛ぶように走っていく姿を見て本当に素晴らしいなとも思うと同時に、期待されたスポーツというのは、期待された実力をそのまま出せるかといったら、なかなか出せない。そのために一生懸命練習を重ねてやってきて、出雲の地で一生懸命走っている姿は、やはりいいなと思っていたところである。

今度、9年後の島根国スポで、出雲市も3競技増えて、今7競技ということで進んでいっている。

国スポに向けては、盛り上がりはまだ少ないが、私も経済同友会や商工会議所などに、何とか話していきながら、全体で盛り上がっていくような形ができればいい

と思っている。

今日は第4回スポーツ振興審議会ということで、皆様のご意見をいただきながら進めて参りたいと思うので、どうぞよろしくお願いする。

(2) 議事

議事① 新計画(案)について

(成相会長)

では、議題の1、新計画(案)について、文化スポーツ課から説明をお願いします。

(事務局：今岡補佐)

新計画(案)(資料1)について説明

(成相会長)

ただいま事務局から、新計画(案)について説明があったが、委員の皆様から、質問・意見等があれば挙手のうえ発言をお願いします。

(野津委員)

資料1-1において、共生社会実現に向けたスポーツ活動の推進で、障がい者スポーツの項目を分けていただいている。あくまでも計画案として、こういうふうにパッと書かれた方が文章的には良いと思っている。

ただ、実際、スポーツをするときは、障がい者とその上に記載のある高齢者と、できることが結構一緒である。文章的にはこのように分けてもらった方が、力を入れているとわかるが、皆様の頭の中では、障がい者と高齢者を分ける、という考えは持って欲しくないと思っている。実際のところ、現場では一緒にやったりしてるところが結構あると思うので、そういう頭で一緒にやってもらえればと思っている。

それと、11ページの①で、障がい者のスポーツ活動の推進で、いろんな機会を提供しますとあるが、例えば聴覚障がい者が参加されるとき、通訳者がいると思っている。そこまで踏み込んだことを考えて、機会を提供するということか。例えば器具とか指導員とかではなく、そのようなコミュニケーションをとるような人も必要であるということも踏まえていただければと思う。

ただ、聴覚障がい者がされる競技として、今、ボウリングぐらいしか私も頭に浮かばないのだが。

これから、結構若い方がおられると思う。健常者と障がい者が一緒にバスケットでもできると思っている。ただ、コミュニケーションが取れないと思う。その時に、ある程度の対応ができるよう、100%やることは難しいところだと思うが、そういう取組もして欲しいと思っている。

(青木委員)

これまでのいろいろな意見を反映し、作り変えられていて、いい形になってるんじゃないかと思う。確認であるが、いわゆるスポーツの定義の中も含めて、全体の中で、eスポーツの言葉が出てこない。eスポーツを出雲市の計画の中ではどのようにとらえているかということ、全員で確認する必要があると思っている。

(事務局：今岡補佐)

eスポーツについては、スポーツとするかを含めて、スポーツ庁からも特に見解

が出ていない。

数年前、鈴木長官の時には、まだ時期尚早というコメントは出されているが、新しい長官になってからは、特に見解を示されていない。第3期のスポーツ基本計画の中でどのように取り扱われるかというところも見えてこない。事務局としてはスポーツの推進計画として取り入れるには時期尚早かと思っているがいかがか。

(青木委員)

全員で確認した上で、そういう扱いになってるということであればそれで良いと思う。

(矢田委員)

事前に、新計画案を全て読んだ。我々のようなスポーツNPO、中間支援組織に対するメッセージが一つも見受けられられないと思っている。現状、指定管理者になっているということもあるかもしれないが。いわゆる市が支援をして設立されたスポーツ団体、NPOの立場をどのようにとらえているか。

(事務局：今岡補佐)

NPO法人さんは、指定管理者という部分もあるが、スポーツを推進していただいている団体ということで、スポーツ団体というとらえ方をしている。

(矢田委員)

そうすると、今までの計画もだが、実際にいろんな競技会やイベントを開催する時には、どこの地域にもあるNPOがおそらく関わっていると認識している。スポーツ団体の組織強化の記載がある20ページにも、残念ながら我々のような中間支援組織の位置付けが出てきていない。やはり体育協会、スポーツ少年団の事務局をはじめとして、市と一緒にあって、役割分担をしてやっていくというのが我々団体の設立の経緯であり、それは平田、斐川、佐田、多伎も同じだと思うので、この計画と一緒にやっていくんだというようなメッセージを一つでも入れていただいた方がよいかと思う。

(事務局：三代部長)

貴重な御意見ありがとうございました。

野津委員から障がい者スポーツの機会の提供の部分についてお話をいただいた。計画の中ではなかなか事細かく書けないが、そういった認識を持って、進めていきたいというのが事務局の方でもある。

今年、パラリンピックも行われ、障がい者スポーツに対する認識は、国民あるいは市民の皆さんにより深まったと感じている。市においては、文化スポーツ課でスポーツ全般に携わっており、一方、障がい者スポーツについては福祉推進課も深く関わっているので、連携をとりながら、今後はより一層裾野を広げて、障がいをお持ちの方が、何かの形でスポーツに携わっていただける機会の提供を、この5年間で進めていきたいと思っている。

2点目に、青木委員から意見のあったeスポーツについては、今岡補佐から、回答したとおりだが、新計画も、今回、皆さんの御協力を得て策定するが、5年間固定するものであるとは考えていない。状況、あるいは必要に応じて見直しが必要だと思っている。その際は改めて委員の皆様にご相談申し上げたい。

e スポーツの取り扱いについては、今後、国の指針なり計画が、何かの形で出てくるのではないかと思う。スポーツ庁サイドか、経産省サイドかわからないが、状況を見て判断をしていきたいと思う。

それから、矢田委員からいただいた、NPOに対するメッセージについては、NPO法人出雲スポーツ振興21をはじめとする各団体、体育協会等、団体の御協力を得てこの計画を推進したいと考えているため、先ほど提起いただいた20ページに記載したいと考えている。

(手銭委員)

計画を見たが、審議会での議論を受けて、非常にすっきりと、良い形が整ってきたかと思う。

国の計画指針の中でも、特に学校の働き方改革の視点も踏まえて、運動部活動改革、それから、青少年の地域のスポーツ環境の整備が急務の課題であると出ている。

市の計画も、基本目標「スポーツを担う人づくり」で、「自主的・主体的にスポーツに取り組むことができる社会を実現するためには、スポーツを支える指導者の確保・育成が必要となります。」とうたっている。これまでの審議会でも、指導者をどのように育成し、確保するかということが、急務だという話しになったときに、指導者について呼びかけていくが、誰でもよいわけではなく、人柄、資格的なことなどが、ある程度の基準に達しないと、招き入れることはできないということが、課題として上がっていた。

現計画でも指導者確保をうたっており、今回の計画でも、再掲という形で、継続的な努力目標という形で記載があるが、これを具体的に進めことは、結構大変なことだと思っている。限られた競技経験者の中から、運動部活動あるいは地域のスポーツの推進の旗振り役を育て、確保していくということは、なかなか難しい課題だなと思っている。

計画に書いた上では、どのように進めていくか、ある程度道筋がないと、計画に書いてあるのに何もなっていないのではないかと、全然増えてないのではないかとこの根拠になってしまうので、そこは、急いで取りかかる必要があるのかなと思う。

ちなみに多伎地区の小、中学校の現状からいうと、多伎中学校の運動部活動はバレー、野球の2つで、女子がバレー、男子が野球である。なので、サッカーをずっとやってきた子など、6年になると、進学先を変えていいかという相談が毎年ある。保護者の方が、湖陵あるいは浜山、あるいは河南で進学先を探される。とにかく、ずっとやってきたサッカーなど、野球以外の競技を探されており、校区外の進学先について相談が入ってきている。今年もすでに3人ぐらい、考えておられる。

例えば、多伎中学校に、陸上の地域講師でもいたらなど、いろいろ案は立てたりしたが、なかなか難しい。

計画に企業スポーツという言葉が出るが、先日、くにびきマラソンの時に、ボランティアの役員さんの中で、企業から派遣された方々が、各中継所2名ずつ配置されていた。非常に理解もあり、本当に支えていただく人材として、企業からの派遣というのは、非常に助かった。もしかしたら企業の、中、高、大学を含めて競技を経験しておられた方々は、結構理解が深いのかなと。なので、その社長さんなどに、何とかお願いする、というようなことをしたら、良い方が1人でも2人でも、各学校の方に来てくれたりということもあるのかなと思う。

あまり良いアイディアは浮かばないが、働き方も含めて、部活に専門家が張り付いて、年中指導するという形が取りにくいいため、ぜひ、何とかここに再掲した上は、実現するようになると思う。

もう1点、これは内容面でないが、一番最初のところに、全国国民スポーツ大会、全国障害者スポーツ大会とあり、この表記は国スポ・障スポということになる。

ですが、11 ページの基本施策「障がい者のスポーツ活動の推進」における、「全国障害者スポーツ大会を見据えた障がい者スポーツ」という一文の中に、障がい者の表現が2つ出てくる。

全国障害者スポーツ大会は大会名どおりの表記で、障がい者というのは、市としてひらがなで表記するということだと思うが、一文の中に2つの表現が混じっているのを一般の方が見たら、ちょっと混乱するかなと。なので、括弧書きで、大会名を括るなり、注釈をつけるなりしないと、これはどうなってるかというようなことを、一般の方は思われるのかなと思う。

(事務局：矢田課長)

障がい者の表記については、固有名詞と一般的な障がい者スポーツがわかるような形で表記したいと思う。

指導者の育成に関しては、おっしゃるように、急務であるところである。先般、パナソニック(株)さん、山陰パナソニック(株)さんと締結した連携協定において、スポーツ教室などの裾野を広げる事業や、指導者育成ということでも御協力いただけることになっているため、できるだけそういった指導者育成を続けていけるような仕組みを、出雲市としても考えていきたいと思っている。

(藤江委員)

先ほど、手銭委員から部活動に関する指導者の話があったが、今、多忙化解消についての教職員の会議に参加しており、会議の中でも、中学校の部活動については、先ほどおっしゃったような、課題というか、困難があるということが出る。教職員が部活動を指導するということももちろん大きな効果があり、それをおいてではないが、休日、土日を中心とした地域の方の支援を、という話を大分訴えかけており、一つの動きの中で、文化スポーツ課と教育委員会の児童生徒支援課との連携で、スポーツ推進員さんに対して、部活指導員として協力いただけないかという文書が出ている。

私も教育委員会の方から文書をいただいております、実際そういう動きもしてされているということは事実なので、全く動きがないというわけではなく、努力もしておられる。たくさんの方が参画していただけるような条件や、いろんな環境もあり難しいが、動いていただいていることは確かなので、学校現場としては、ありがたいことだなと。ぜひ進めていただきたいと思っているので、動きがあるということをお伝えしておく。

(大森委員)

藤江委員がおっしゃったが、今の関連で、10月6日付の文書でスポーツ少年団に対して、出雲市立中学校部活動指導員の募集についてのお願いという文書が届いた。一応、各支部や、各団体の代表者等に回覧していただくようお願いはしているが、内容を見ると、先ほどもあったように誰でもいいという問題ではないと思う。やはり、それなりの資質を持った方が指導していかないといけないのではないかなと思う。

教育委員会の児童生徒支援課が担当されてるようだが、スポーツ少年団に対しての情報をもう少しいただいたり、保険のところで労働災害補償保険に加入とは書いてあるが、この保険がどういう内容なのかなど。

いろいろな思いを持っておられる方もいらっしゃる、なかなか思い切ってやるというのもない。それからやはり指導ということになると、あまり高齢になると、中学生さんとの兼ね合いもある。年齢的に40代5代になってくると、やはり仕事を持った上での指導者ということになる。その辺の関係もあるため、配布される前に、もう少し具体的に話を伺いたかった。出雲市から、この件に関してあまり具体的なことを示されてなかったのも、この審議会を通じて、出雲市体育協会と一緒に、なってもう少し話を進めていきたいなという思いで、協力していきたいと思っていた。

そのための今の指導者制度について、ガラッと変わり2023年度から、いわゆる指導員の資格を持たないと指導ができないという形になっている。その辺も含めて、もう少し共通認識を持って、難しいことだと思うが、実際、蓋を開けたら全然人がいなかったということではいけない。国が示されてるものなのでやはりどんどん押し進めなければいけないという面は、先ほどの藤江委員と同じような考えでいる。

もちろん御協力していきたいと思うので、もう少し情報もいただいたりしていきたいと思う。この辺も含めたこれからの指導者の育成を積極的にしていただければよいのではないかと思います。

(成相会長)

ありがとうございます。

指導者のことはなかなか大変なことであると思う。

しかし、いろんな問題点を、やっぱり話し合っていく中で、何か解決策が見えてくるかもしれない。しっかりとその辺のところは、話し合っていきたいと思う。

(青木委員)

13ページの基本施策「スポーツイベントの開催・支援」のところだが、支援の中で、アンケートにも入ってた吉岡隆徳記念出雲陸上競技大会の開催が、新計画に入っていない。この大会についてはアンケートに並べてすべて調査されていたが、これの扱いは、実際はどうなってるのか。ここに並んでるものと同じように、知名度のアンケートを取られたりしているが、その辺のお考えをお聞かせ願いたい。

(今岡補佐)

吉岡隆徳記念出雲陸上競技大会の開催については、基本施策「スポーツ団体による各種スポーツ大会の開催」で12ページに掲載しているが、こちらは地元出身選手の名を冠とした大会ということで記載している。「スポーツイベントの開催・支援」は、スポーツツーリズムに資するスポーツイベントを記載しているが、吉岡隆徳記念出雲陸上競技大会も、ここ数年は、遠方から招待選手を招いたり、グランプリシリーズにもなったりしているため、スポーツツーリズムにも通じるということで、こちらにも再掲という形で載せたいと思うがよろしいか。

(青木委員)

「スポーツイベントの開催・支援」のところの並びに掲載するということか。

(今岡補佐)

はい。

(安喰副会長)

今までの意見を集約してまとめられたということは、とても素晴らしいと思う。6ページに掲載されているスポーツの定義の中に、わかりやすく鬼ごっこという言葉が一つ入ると、やわらかく、目を引くようになりよかったと思う。

それともう一つ、先ほどから出ている、指導者の育成だが、15ページに、スポーツリーダーバンクの再構築というのが出ている。やはりこれは急務じゃないかなと思う。言葉だけ、文字だけにとどまらずに、これはどうしたらいいか、あれはどうしたらいいかという、具体的なことをここで話すのか、事務局から原案を出していただくのか、そういうところをもう少し、指導者育成に関して論議したらいいか。

先ほどの話にもあったが、基準はもちろんのこと、人、経験、年齢という言葉も出たが、そういうことがいろいろと関係する上では、なかなかリーダーということが難しいということになってしまいがちになる。指導者は、ある程度の基準がないといけませんが、早くやらなくてはいけないということもあるため、どのように議論していく、どのように掴んで邁進していくかということ、やはり、この会でやっていけたらいいなという感想を持ったので、よろしく願います。

(事務局：矢田課長)

新計画で掲げた目標については、具体的にその目標に向かってどういう段階で進んでいくかということ、毎年検証しながらやっていかなければいけないと思っている。目標達成に向けての進め方は、また今後検討させていただいてきたいと考えている。

議事② 数値目標の設定について

(成相会長)

議題2の数値目標について文化スポーツ課から説明をお願いします。

(事務局：今岡補佐)

数値目標の設定について(資料2)について説明

(成相会長)

ただいま事務局から、数値目標について説明があったが、委員の皆様から、質問・意見等があるか。あれば挙手のうえ発言をお願いします。

(野津委員)

定期的な運動実施率について、これは週1か、月1か。

この間のアンケートを持ってきてはいないためわからないが。

(事務局：今岡補佐)

定期的な運動実施率についてはアンケートで問いかけていない。

(野津委員)

というのが松江市を見ると、週1回以上とちゃんと書いてある。
目標値を設定するなら、それをはっきりしておいたほうがよいのではないか。

(成相会長)

例えば、くにびきマラソン、一畑薬師マラソン、スイムラン、ツーデーウォークなどいろいろあるが、目標値はこちら側が決めるのか。それとも、その実行委員会が決めるのか。

(事務局：今岡補佐)

こちらで決めようと考えていたが、いかがか。

(成相会長)

各実行委員会で、今年はこれだけ集めて実施したいというような意欲を持ってやっていると、その目標値を上回ることがあったり、運動実施率について国が決めたのが65%とすると、それ以上になってもいいわけである。スポーツイベントを計画される実行委員会の人たちが、今年はくにびきマラソンは1,600人ぐらい集めようとか、コロナも落ち着いてきたからこうしようというような意気込みなど、そういったものが出てきた時に大きく目標を設定するとかいうことがあってもいいのではないかと思うがいかがか。

(事務局：矢田課長)

目標設定については、それぞれの実行委員会の皆さんに理解していただき、目標値までしっかりと盛り上げるための情報発信や、募集について工夫をしていただくよう取り組んでいただけたらと思っている。くにびきマラソンで何人といった目標というよりは、この計画を基に、目標値を超えるように、募集について工夫をしていただくという取組を、こちらからも発信していくべきかと思っている。

(矢田委員)

この支援スポーツ施設の利用者数というのは、有料施設の人数か。

今、出雲健康公園にはスケートボード場があって、オリンピックの影響ですごく問い合わせをいただいております、利用者数が増えていることを実感している。ルールを守って皆さん使っている。無料の施設なのでカウントが難しいが、もし他の施設でもあれば、市民のスポーツ活動としてたくさんしておられると思うので、計画を実行する際に、数字を取ろうかという時には、いろいろ御相談させていただきたい。本当にやってる、使ってる方々の数が出た方が、市民の活動としては表れやすいと思うので、また御相談させていただきたい。

(事務局：今岡補佐)

今現在は、無料の施設は人数の把握ができていないため、有料施設ということになる。

(成相会長)

この成果目標をもって進めていくということによろしいか。

(全委員)

—了承—

(成相会長)

ありがとうございました。本日、意見をいただいたが、後程お気づきの点もあるかと思う。気軽に事務局にファクスやメールでお送りいただきたいと思う。

それでは、その他の事項は、文化スポーツ課で願います。

(3) その他

(事務局：今岡補佐)

参考資料について説明

次回の審議会の日程について、次回は 11 月中に開催を予定している、10 月 29 日までに、日程調整票の御提出をお願いしたい。

(事務局：矢田課長)

以上で第 4 回出雲市スポーツ振興審議会を終了する。

本日はありがとうございました。